

総合科学技術会議と日本学術会議の連携強化の在り方に関する懇談会
(第2回)(報告)

日時：2月23日(木)12:15~13:15

場所：日本学術会議 6-A(1)会議室

概要：

第2回目となる今回は、総合科学技術会議からは、阿部議員、岸本議員、
柘植議員、黒田議員、原山議員、日本学術会議からは、黒川清会長、浅島
誠副会長、大垣眞一郎副会長が、また、内閣府からは、江利川事務次官、
武田内閣府審議官等が出席しました。

冒頭、黒川会長より日本学術会議の新しいビジョンと課題について説明
を行った後、西ヶ廣事務局長より先般行われたIAC理事会について報告
がありました。また、総合科学技術会議と日本学術会議との連携強化の一
つとして、総合科学技術会議が抱える重要政策課題に対して日本学術会議
が機動的な対応をとることについて、今後、具体的な検討を進めて行くこ
ととなりました。この他、サイエンスカフェや研究上の不正に関する対応
など、両会議の最近の活動について報告がありました。

前回に引き続き、非常に活発な意見交換が行われ、次回は4月下旬頃を
目途に第3回を開催することとなりました。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課総括係

(Tel:03-3403-1250、p221@scj.go.jp)

黒川清会長の中馬行政改革担当大臣訪問(報告)

2月9日(木)夕刻、黒川清会長が内閣府大臣室に中馬弘毅行政改革担
当大臣を訪問しました。黒川会長は、連携会員の件にも触れつつ日本学術
会議の最近の活動につき紹介し、また、内閣官房行政改革推進事務局にお
いて検討中の公益法人制度の改革にあたって学協会が学術振興のために果
たしている役割の公益性について十分な理解が必要との考えを述べ、中馬
大臣も理解を示しました。

委員会委員の承認(報告)

2月23日の第9回幹事会において、次の委員会の委員について、各部
から推薦された候補者にに基づき、決定されました。

1. 課題別委員会

- (1) ヒト由来試料・情報を用いる研究に関する生命倫理検討委員会
- (2) 学術・芸術資料保全体制検討委員会 (追加分)
- 2 . 機能別委員会
 - (1) 企画委員会年次報告等検討分科会
 - (2) 国際委員会 AASSREC 等分科会 (追加分)
 - (3) " PSA 分科会
 - (4) " 持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議
2006 分科会

最新の委員一覧については、以下のホームページを御覧ください。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/index.html>)

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課情報係

(Tel : 03-3403-1906、p228@scj.go.jp)

科学と社会委員会科学力増進分科会第 20 期活動目標 (報告)

2 月 1 3 日に開催された第 1 4 7 回臨時総会において、科学力増進分科会毛利衛委員長より同分科会における審議状況及び第 20 期活動目標の報告がなされました。

活動目標の詳細については、以下のホームページを御覧ください。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/index.html>)

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官 (審議第二担当) 付

(Tel : 03-3403-1056、s253@scj.go.jp)

課題別委員会の設置 (報告)

2 月 1 3 日の第 8 回幹事会において、「地球規模の自然災害に対して安全・安心な社会基盤の構築委員会」及び「子どもを元気にする環境づくり戦略・政策検討委員会」、2 月 2 3 日の第 9 回幹事会において、「教師の科学的教養と教員養成に関する検討委員会」の設置が提案され、承認されました。

委員会の詳細については、以下のホームページを御覧ください。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/iinkai/index.html>)

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官 (審議第二担当) 付

(Tel : 03-3403-1056、s254@scj.go.jp)

日本・アフリカ科学交流エッセイ・スピーチコンテスト募集開始公表
イベント (報告)

2月22日、「科学技術で日本とアフリカの交流の礎を築く」と題し、南アフリカ共和国科学技術省及び大使館主催エッセイ・スピーチコンテスト募集開始公表イベントが行われ、日本学術会議から黒川会長が出席し、講演をしました。

このコンテストは、日本とアフリカの科学技術交流を促進しすべての人々の生活の質の向上を図ること、科学技術が持続開発可能であることを一般に伝えること、日本とアフリカの次世代に相互利益となる協力関係を発展させるように導くことを目的として開催されるもので、日本学術会議と外務省が後援しています。

対象は日本、アフリカ諸国の高校生以上の学生で、参加者は冒頭のテーマでエッセイを書き、それに基づき6月16日に口頭プレゼンテーションをした上で、日本から3名、南アフリカ及びザンビアから3名の学生が選ばれることになっています。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官（国際業務担当）付参事官補佐
(Tel:03-3403-5731、i252@scj.go.jp)

日本学術会議 英国王立協会共同ワークショップ「ナノテクノロジーの健康・環境・社会影響に関する日英合同ワークショップ」の開催（報告）

期 間：2月23日（木）

場 所：東京ビッグサイト

標記ワークショップには、日本側は黒川清会長、石倉洋子副会長（国際活動担当）、岸輝雄第3部会員をはじめとして約20名、英国側はMark Welland アバディーン大教授、Anthony Seaton ケンブリッジ大教授をはじめとして約15名、オブザーバーなどを含めた全体では約80名が参加しました。

ワークショップでは、「健康・環境影響に関する課題」、「日英アカデミー協力」などを主なテーマに講演、ラウンドテーブルディスカッション等を行い活発な議論が交わされました。

本ワークショップの結果を踏まえ、後日、レポートを取りまとめる予定です。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官室（国際交流担当）

(Tel:03-3403-1949、i253@scj.go.jp)

日本学術会議ニュースメールは、日本学術会議第19期会員、第20期会員・

連携会員、日本学術会議協力学術研究団体などに配信しています。転載は自由
ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をして
いただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局（p228@scj.go.jp）
まで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34